

手を伸ばせば届きそうな距離に高市総理 122兆円の国家予算が衆議院を通過



衆議院議員 自民党1期
藤沢 忠 盛

相談しやすい衆議院議員として、現場に足を運んでまいります。

その席は日本の未来の最前列だった

3月13日、衆議院本会議は夜10時25分まで続きました。過去最大規模、約122兆円の国家予算が衆議院を通過しました。私は「日本の未来をこの目で見る、最前列の席にいました。国会議事堂、衆議院本会議

場の正面前から三段目。見上げれば天井の意匠、見渡せば議場全体を包む独特の緊張感、資料をめくる音が静かに響く中、目の前には高市総理。手を伸ばせば届きそうな距離でした。テレビで何度も見てきた国会の光景です。けれども、その場の空気は画面越しとはまったく違いました。静かなのに張りつめていて、ざわめきが収まる一瞬

に、議場全体の視線が一点に集まる。発せられる一言ひとことに、日本の進む方向がかかっている。その重み、その覚悟が、まっすぐ胸に伝わってきました。私はそのとき、今の日本に必要なのは「攻める政治」だと、強く確信しました。守りを守るだけでは、経済も地域も成長しません。未来への投資をためらうては、新しい成長は生まれては、新しい成長は生まれては、新しい成長は生まれては

2026年見通しではインフラに次ぐ5位とされている。世界の中で、日本の立ち位置が揺らいでいる現実から、もう目を背けるわけにはいきません。いまこそ必要なのが、「責任ある積極財政」です。これは単なるばらまきではありません。未来に返ってくる投資を、戦略的に先行して打つことです。自民党の政権公約でも、AI・

き、民間の挑戦を後押しする。その循環をつくること、政治の役割です。これは豊田市・みよし市にとっても、まさに必要な政策です。インフラ更新、産業の高度化、中山間地の人口減少、農林業や中小企業への支援、人材育成。どれも待ったなしです。現場を歩けば、道路や水道の老朽化への不安、働く場をどう守り育てるかという声、安心して子どもを育てたいという願いが、確かに聞こえてきます。投資すべき時に投資しないことこそ、未来への損失です。

ない。そう痛感しました。この30年、日本はデフレの中で、支出を抑え、削減し、効率化を進めてきました。それは必要な努力、いわば「守る政治」です。しかしその一方で、日本の元気は少しずつ弱まり、地域の活力は削られ、将来への不安が広がっていきました。かつて世界第2位だった日本の名目GDPは、その後順位を下げ、IMFの

半導体、量子、核融合、バイオ、航空など、17の戦略分野への集中投資が掲げられています。加えて、老朽化した道路、橋、下水道を更新する国土強靱化は、国民の命を守るだけでなく、地域経済を回す力にもなります。さらに、教育、子育て支援、人材育成への投資があつてこそ、新しい産業と雇用が生まれます。国がまず責任を持って種をま

あ。三段目で感じた熱量を、私はこの地域の現実の力に変えていきたい。私は相談しやすい衆議院議員として、これからも現場に足を運び、皆さんの声を受け止め、政策として形にしていまいります。みんなの声で未来をつくる。その覚悟で、責任ある積極財政を、この地域から前に進めてまいります。